

## 「2022年度中国・浙江大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学文学研究科修士課程1年 笠井健太郎

## 1. 学習成果

学部生の時から、指導教員にはことあるごとに留学を勧められていました。しかし当時は体育会の部活動に参加していたこともあり、必要であることは分かりつつも、参加することはできませんでした。4月に修士課程に進学して、より本格的に自らの専門分野（私は中国文学専攻）を学ぶ中で、中国語の力を高める必要があると強く感じ、時間も取れるようになったので、今回のプログラムに参加しました。

今回のプログラムはオンラインではあったものの、それまで漠然としていた留学のイメージがより具体的になり、実際に現地に行って勉強してみたいという気持ちが強くなりました。また、授業が原則中国語で行われる中で、聞き取れても自分の言いたいことが表現できない、ということが多くあり、今後もより積極的に京大の中国語の授業に参加し、表現力を高めたいと思うようになりました。語学の授業以外の、中国の経済や浙江の文化に関する講義、浙江大学の学生との交流会や共同セミナーを通して、より実際の中国の姿を知り、イメージできるようになりました。今回のプログラムを経て、留学をより具体的に考えるようになり、修士課程の間に中国留学をするべく準備を始めました。

## 2. プログラムの内容と経験

私は中級クラスで、1週間に精読が4コマ、閲読が2コマ、口語が2コマ、作文が1コマあり、どの授業も基本的には中国語で行われました。最初は先生の言っていることがわからないことも多かったのですが、だんだん慣れてくると先生の言っていることは大方聞き取れるようになりました。その一方で自分の思っていることを表すのは依然として難しかったですが、それでも授業で発言するうちに、最初よりは自分の言いたいことを表現できるようになったと思います。

クラスには我々以外に、韓国やヨーロッパから参加している学生がいました。口語の授業で名前の付け方がテーマの回があり、それぞれの国での名前の付け方や中国名の付け方についてクラスメイトから聞いたのはとても面白かったです。

共同セミナーでは最初に浙江大学の先生のプライバシーに関する講義があり、それについて浙江大学の学生と一緒に議論しました。そのあとは色々なテーマでお互いに意見交換をしました。同じ班だった人たちとは連絡先を交換して、その後もやり取りを続けています。

## 3. 進路への影響

今回のプログラム参加を経て、改めて留学をしたい、という気持ちが強くなりました。また、将来的に海外で仕事をしたり、中国語を使って仕事をしたりしてみたいと思うようになりました。